

小児血液・腫瘍修練コース

主たる研修病院 (所属病院)	東京都立小児総合医療センター
連携して研修する病院・施設(予定)	東京都立多摩総合医療センター、医療法人社団ときわ赤羽在宅クリニック等
研修時に必要とする知識・技量(応募資格)	令和6年4月時点で、以下のすべての要件を満たしている方 ① 小児科専門医を取得済みで、医師歴9年以上の医師、または小児科専門医を令和6年取得予定かつ小児血液・腫瘍学に対する強い熱意を持つ医師歴6年以上の医師。 ② 将来的に小児血液・腫瘍をサブスペシャリティとして都立病院等で勤務することを希望する医師。
コース責任者	氏名(所属) 湯坐 有希(血液・腫瘍科)
	資格名 日本小児科学会認定小児科専門医(指導医)、日本血液学会認定血液専門医(指導医)、日本小児血液・がん学会小児血液・がん専門医(指導医)、日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医、細胞治療認定管理士、小児慢性特定疾患指定医
	専門分野 小児血液・がん
臨床指導体制	小児がん拠点病院である当センターにおいて、当科は小児がん診療の中核を務めております。日本小児血液・がん学会小児血液・がん専門医を取得済みの常勤医が7名在籍しており、他にも常勤医3名が主に病棟主治医を担当しており、指導体制は充実しております。新規診断小児がん患者数は年間50-70名程度と国内では有数の症例数であり、延べ入院患者数は年間700名程度と多く、短期間に多くの症例を経験可能です。AYA世代がん診療についても積極的に取り組んでおり、令和4年にはAYA世代病棟も開設されました。そして外科、脳神経外科や泌尿器科も充実しており、造血器腫瘍のみならず固形腫瘍の診療における血液・腫瘍医の役割についても十分習得できます。放射線照射は隣接する多摩総合医療センターにてIMRTを中心に行っており、照射計画の立案についても経験を積んでいくことができます。また、日本造血細胞移植学会の非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科でもあり、移植に関する経験も積むことができ、半合致移植にも積極的に取り組んでおります。残念ながら治療率の向上には目覚ましいですが、小児がんでは時に終末期医療を提供しなければなりません。そこで、今年度のプログラムから終末期の在宅医療を研修できるよう、連携研修機関である赤羽在宅クリニックでの研修を取り入れるようにしました。さらに主に外来では良性血液疾患患者の経験も積むことができ、特に血友病に関しては血友病診療連携地域中核病院に指定されております。学会や研究会への参加も奨励しており、研究研修費による学会参加補助も可能です。また、連携施設での研修も可能であり、大学院での学位取得も可能です。
これまで行ってきた研究と実績	・「新規診断小児急性前骨髄球性白血病における化学療法剤減量を目指した第2相国際共同臨床試験」開発のための臨床試験立案研究(AMED:代表) ・新規診断小児・AYA世代急性前骨髄球性白血病における化学療法剤減量を目指した第II相国際共同臨床試験(AML-P17)(都立病院機構特別研究、都立病院特別研究、公益信託日本白血病研究基金:代表) ・小児がん拠点病院等の連携による移行期を含めた小児がん医療提供体制整備に関する研究(厚労科研究費:分担) ・小児がん拠点病院・連携病院のQI(Quality Indicators)を評価指標としてがん対策推進基本計画の進捗管理を行う小児がん医療体制整備のための研究(厚労科研究費:分担) ・難治性神経芽腫に対するIL2、GSF併用eh14.18免疫療法の国内臨床開発(AMED:分担) ・小児患者を対象としたPALO第III相試験(企業治験:分担) ・小児急性リンパ性白血病に対する標準治療確立のための臨床研究(都立病院一般研究:代表) ・急性リンパ性白血病におけるステロイド感受性に関わる遺伝子多型の検討(東京慈恵会医科大学大学院研究助成金、都立病院一般研究:代表) ・シスプラチン関連腎障害の予防を意図したマグネシウム補充療法のランダム化第II相臨床試験(都立病院一般研究、がんの子どもを守る会治療研究助成:代表)
臨床研究 今後行う研究と研究体制	・NovoTTF-100Aの小児膠芽腫への適応拡大を目指した先進医療臨床試験(AMED:代表) ・新規発症高リスク神経芽腫に対するインテリノイン単独維持療法の安全性・有効性試験(企業:代表) ・小児・AYA世代に好発する悪性腫瘍に対するシスプラチン投与による内耳毒性を軽減するチオ硫酸ナトリウムの第II相試験(AMED:分担) 新規診断小児・AYA世代急性前骨髄球性白血病における化学療法剤減量を目指した第II相国際共同臨床試験(AML-P17)(都立病院機構特別研究、都立病院特別研究、公益信託日本白血病研究基金:代表) ・エトポシド脳室内投与を実施した患者髄液中のエトポシド薬物濃度測定と臨床アウトカムに関する症例研究(臨床薬理研究振興財団研究奨励金:代表) ・AYA世代がん患者が全国どこにいても孤立することのない社会実現のための全国ネットワークシステム開発研究(都立病院研究費:代表) ・小児がん拠点病院・連携病院のQI(Quality Indicators)を評価指標としてがん対策推進基本計画の進捗管理を行う小児がん医療体制整備のための研究(厚生労働科学研究費:分担) ・小児がん患者の在宅医療における課題やニーズ等の実態把握のための研究(厚生労働科学研究費:分担) 以上の研究をJPLSG等、国内小児がん診療施設と多施設共同臨床試験として実施する。 ・小児がん急性期におけるオンコロジー・エマージェンシー(がん救急)の実態調査とその救命率向上のための前向き研究(リレー・フォー・ライフ・ジャパン研究助成:代表) ・AYA世代がん患者の心理社会的困難及び成長に関する調査研究(1年目コホート研究(がんサバイバーシップ研究助成金:代表)) 以上のような研究を、連携研修施設(慈恵医大)等と行う。
研修項目	都立小児総合医療センター血液・腫瘍科を中心に、小児血液・腫瘍の臨床、研究に関する知識、技術を習得 ①都立小児総合医療センター血液・腫瘍科の湯坐、横川が血液・腫瘍の診断、内科的治療、Translational Researchについて指導(新症数:腫瘍性:約30人/年、非腫瘍性:約30人/年、外来フォロー患者数約450人) ②都立小児総合医療センター検査科松岡が小児がん、特に小児固形腫瘍の病理学的、分子遺伝学的診断法について指導(病理件数:2096件/年、剖検数:7件/年) ③都立多摩総合医療センター診療放射線科泉が放射線治療に関する基礎知識、実際の照射計画立案について指導(べ放射線治療患者数:約15000人/年) ④都立小児総合医療センター血液・腫瘍科(兼務)の牧本が小児固形腫瘍診療、臨床研究の基礎知識等について指導 ⑤都立小児総合医療センター血液・腫瘍科森が小児緩和医療について指導。(希望者は赤羽在宅クリニックにおいて在宅医療の研修を実施。) ⑥希望者は社会人大学院に入学し、学位取得。
研修内容・達成目標	一般目標(GIO) 当コースは小児血液・腫瘍の分野をリードしかつ後進を指導できるような臨床医、臨床に根付いた独創的な研究を実践できる研究者の育成を目指して、小児血液・腫瘍に関する包括的な知識、技能、態度を修得することを目的とします。 行動目標(SBO) ①小児血液・腫瘍性疾患の診断、治療(化学療法、造血幹細胞移植、合併症管理等)ができる。 ②他診療部と連携した集学的治療計画の立案とマネージメントについて学び、実践することができる。 ③診断各論として、病理学的検査法の基礎を研修し、適切な検査オーダー、基本的な染色、分子遺伝学的検査を実施できる。 ④治療各論として、放射線治療の原理、実際を研修し、放射線治療医のもと、治療計画を立案できる。 ⑤治療各論として、小児緩和医療の基礎について学び、実践することができる。 ⑥ジュニア、シニアレジデントに対して教育、指導ができる。 ⑦臨床研究、特に疫学研究、もしくはtranslationalな基礎研究について基礎を学び、研究を立案、実施できる。 ⑧日本血液学会認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医受験資格を取得する。 ⑨希望者は社会人大学院に入学し疫学研究もしくはtranslational researchで学位取得を目指す。
コース内容に関する問合せ先	湯坐 有希(血液・腫瘍科) 電話042-300-5111(代表)